

オンライン学術講演会のご案内

後期奥田言語学の 構想

—未公開資料から見えてくるその全貌—

2023年2月14日（火）

13時 開会（司会：宮崎和人〈岡山大学教授〉）

13時5分～13時35分

講演1 山根功（大阪公立大学教授）「言語学と出版—奥田晴雄とむすび書一」

13時35分～14時15分

講演2 佐藤堂美（言語学研究会）高瀬匡隆（言語学研究会）「著作集の構成と補遺編の概要」

14時15分～14時30分 休憩

14時30分～15時55分

講演3 工藤直由美（大阪大学名誉教授）「奥田晴雄の文論研究の軌跡」

15時55分 閉会挨拶

16時 閉会

参加料無料（定員100名（申し込み先着順））

申込期限 2023年1月31日（火）

参加をご希望の方は申し込みフォーム（下記URLまたはQRコード）から申し込みください。後日、Zoom会議のURLとID、パスワードをお送りいたします。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQL5dGnjEL47hNcOChwdINE9DCINDP55aM5P4VdkWewJ1o7HYKqA/viewform?usp=sf_link



問い合わせ先

k_miya@okayama-u.ac.jp

宮崎和人

言語学者奥田晴雄の晩年の言語研究の中心を占めるのは、発話論、プラグマティクスへとつながる、文論に関するものでした。その始まりは、1984年発表の論文「文のこと」に求めるところですが、選んでいけば、富城教育大学へ赴任した仙台時代の講義ノートに、その萌芽が見られます。しかしながら、こうした奥田の文論についての歴々の軌跡は、未刊行の資料が多かったことから、これまであまり注目されてきませんでした。

このたび、むすび書より『奥田晴雄著作集 補遺編』が刊行され、奥田の言語研究の全貌が一層明らかになりました。今回の講演会では、仙台時代における奥田の言語研究や著作集編集・刊行の経緯を踏まえつつ、発話論、プラグマティクスへとつながる、奥田の文論の歴々の軌跡をたどることを通じて、この期の奥田の思索に関する言語学的意義について探求したいと思えます。

主催 岡山大学文学部現代日本語領域
